



# 人と地球の未来に もっとやさしい ペットボトルへ

人と地球のより良い未来を見据えた  
新しい制度について紹介します！



令和4年度食品容器包装のプラスチック削減対策促進事業（農林水産省補助金）

執行団体：一般社団法人 全国清涼飲料連合会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2丁目9番2号（PMO 神田岩本町）

TEL. 03-6260-9260 FAX. 03-6260-9306 <http://www.j-sda.or.jp>



一般社団法人 全国清涼飲料連合会

# 皆さまに愛される飲み終わった後の ペットボトルの 回収率とリサイクル率は 現在、世界トップレベルです!



軽量・丈夫で持ち運びやすく、繰り返しキャップができるからこまめに飲んで、さらには透明で中身が確認できるから安心。そんな消費者におけるメリットに加え、リサイクル性や加工性も高いため、事業者にとっても魅力の多いペットボトル。容器別生産量シェアは年々高まり、現在では約8割を占めています。



□容器別生産量シェア(2023年)

ペットボトル

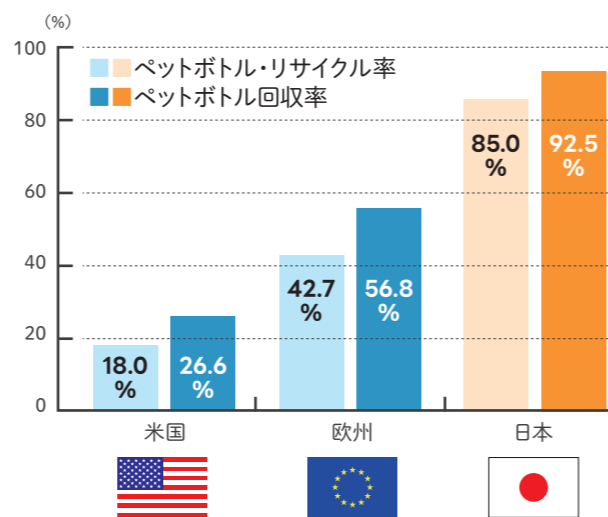
## 79.0%

出典:全清飲活動レポート2024

## 日本はペットボトルのリサイクル大国!

ペットボトルの回収率、リサイクル率において、日本は欧米諸国を大きく引き離し、すでに世界でもトップレベルのリサイクル大国といえます。「容器包装リサイクル法」の施行によって、「ペットボトル=リサイクルしやすい資源」という理解も進みました。消費者も一緒に回収に協力していただいていることが、高いリサイクル率につながっています。回収率をより高めるためにも、清涼飲料業界は消費者や法人向けに広報・啓発活動を推進していきます。

□米国・欧州諸国・日本の  
ペットボトル回収率とリサイクル率  
(米国:2020年、欧州:2021年、日本:2023年度)



出典:PETボトルリサイクル年次報告書2024 欧州:Wood Mackenzie社  
米国:NAPCOR(National Association for PET Container Resources)



ペットボトルをちゃんと分別していることも  
高いリサイクル率につながっています!

30年以上前から  
ペットボトルは  
積極的に  
リサイクルに  
取り組んでいます



日本のペットボトルのリサイクル率を高めている自主設計ガイドライン。正式には、「指定PETボトルの自主設計ガイドライン」と言います。30年以上前の1992年に、清涼飲料業界とペットボトル事業者団体が、協働で制定しました。以来、改訂を重ねながら、リサイクルしやすいペットボトルづくりを支えています。



主な項目	備考
PET単体	●PET主材以外の物質を添加複合などをしていない。 ●衛生安全性が確保され再利用上問題がない。
着色はしない(無着色である)	
容易に押しつぶせる構造が望ましい	
ボトル本体への直接印刷は行わない	●賞味期限・製造所固有記号・ロット印字等の 微細な表示は除く。

# これからの新しいキーワード、それが... ボトルtoボトルです!

「ボトルtoボトル」はCO<sub>2</sub>の排出量を抑制し、地球温暖化を防ぐ「カーボンニュートラル」の動きにも合致しています。使用済みのペットボトルを回収して新しいペットボトルを作る「水平リサイクル」ですので、石油由来の資源を使ってペットボトルの原料樹脂を作るよりも、リサイクルしてペットボトルの原料樹脂を作る「ボトルtoボトル」の方がCO<sub>2</sub>排出量を約60%(※原料樹脂ベース)減らすことができます。この循環型サイクルは何度でも繰り返すことができるので、地球環境にやさしく、CO<sub>2</sub>排出抑制にもつながる理想のシステムなのです。



清涼飲料業界は、2030年までにボトルtoボトル比率50%を目指しています!

さらに、ペットボトルは清涼飲料業界と  
 ペットボトル事業者団体が協働で  
 取り組んでいる自主設計ガイドラインに加え、  
**国の指針に沿った環境配慮設計を  
 進めていきます！**

# もっとやさしい ペットボトルへ！

2ページにありますように、清涼飲料業界は、リサイクルしやすいペットボトルづくりに努めてきました。  
 2022年に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(→4ページ)が施行されたことに伴い、「プラスチック使用製品設計指針」に沿った、プラスチック使用製品のうち、特に優れた製品設計を、国が認定する制度が創設されました。この制度は、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷等の総合的な評価及び情報等の公表を行った上で、この基準を満たした製品は国が指定した調査機関へ申請することで、「**認定プラスチック使用製品**」として、国に認定されます。清涼飲料業界では、より環境にやさしいペットボトルをつくるため、30年以上前から運用している「**指定PETボトルの自主設計ガイドライン**」に加えて、国の指針に沿った環境配慮設計を進めていきます。環境配慮設計は、消費者のみならず、環境に配慮した製品を選んでいただくための取り組みです。そして、清涼飲料業界にとって、ペットボトルの「未来を見据えた新しい目標」です。

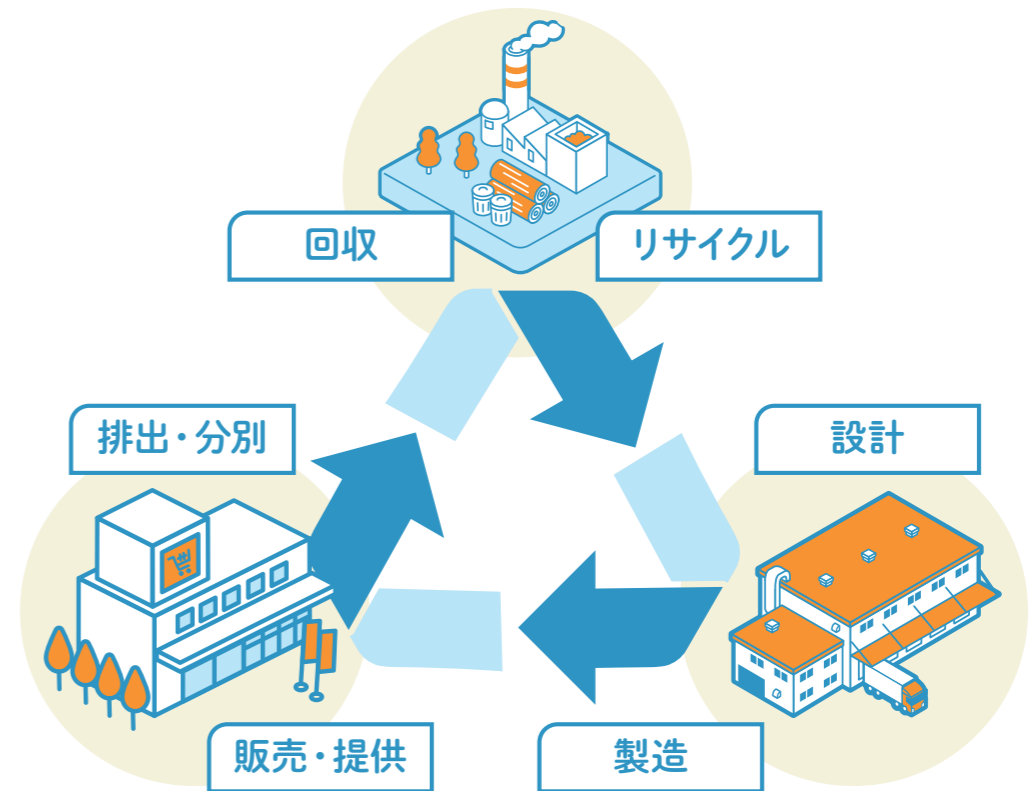
他の使い捨てプラスチックと異なり、  
**飲み終えたペットボトルを  
 新しいペットボトルへ  
 何度でも繰り返し  
 リサイクルできる！**  
 それがペットボトルの大きな特徴です！

ペットボトルは  
 繰り返しリサイクル！



## 2022年4月 プラ新法スタート!!

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」(以下、プラ新法)とは、プラスチック使用製品の「設計・製造」、「販売・提供」、「排出・回収・リサイクル」というライフサイクルのなかで、3R(リデュース・リユース・リサイクル)+Renewable(再生プラスチック・再生可能資源等)を進め、サーキュラーエコノミー(循環型経済)への移行を推進するための法律です。



### プラスチック使用製品設計指針について

プラ新法では、プラスチックを扱う事業者に向けて、環境配慮設計に関する指針「プラスチック使用製品設計指針」を策定しています。これは、プラスチックを扱う事業者が取り組むべき事項及び配慮すべき事項を定めています。つまり、プラスチックを扱う事業者は、設計・製造段階から、この指針に沿って、プラスチックの資源循環を考慮することが求められています。

#### 構造

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| ① 減量化                  | ⑤ 単一素材化等    |
| ② 包装の簡素化               | ⑥ 分解・分別の容易化 |
| ③ 長期使用化・長寿命化           | ⑦ 収集・運搬の容易化 |
| ④ 再使用が容易な部品の使用又は部品の再使用 | ⑧ 破碎・焼却の容易化 |

#### 材料

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| ① プラスチック以外の素材への代替 | ③ 再生プラスチックの利用  |
| ② 再生利用が容易な材料の使用   | ④ バイオプラスチックの利用 |



- 
- 
- 
-

# 環境配慮設計における 清涼飲料水用 ペットボトルの 取り組みはこちらです！

ペットボトルを、もっと環境に配慮した設計にするため、プラ新法の「プラスチック使用製品設計指針」に沿った取り組みを進めています。

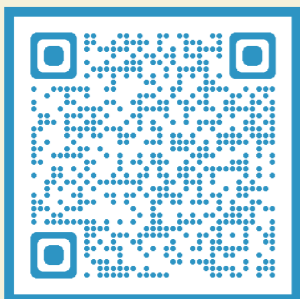


## ■ 清涼飲料水用ペットボトルの環境配慮設計の詳細はこちら！ (全国清涼飲料連合会のWebサイト)



全国清涼飲料連合会の Web サイト  
(<http://www.j-sda.or.jp/environment/circulation-society05.php>)  
へ接続します。

## ■ 環境配慮設計の申請方法や認定された製品一覧等はこちら！ (プラ新法のWebサイト)



認定製品の詳細はこちらから！

Webサイト「プラスチックに係る  
資源循環の促進等に関する法律  
(プラ新法)の普及啓発ページ」  
(<https://plastic-circulation.env.go.jp/>)に接続します。



清涼飲料業界は、  
人と地球のより良い未来を見据え、  
ボトルtoボトル推進を通して、  
**資源循環と**  
**カーボンニュートラルに**  
貢献していきます！

